

産後の母親支援に関する アンケート結果の概要

調査の概要について

(1) 調査目的

進行する少子化への対応として、妊娠・出産時における母親の不安や負担の軽減等に資する新たな産後育児支援の在り方について検討を行うため、県内産前産後の母親に対しニーズ調査を実施。

(2) 調査日時

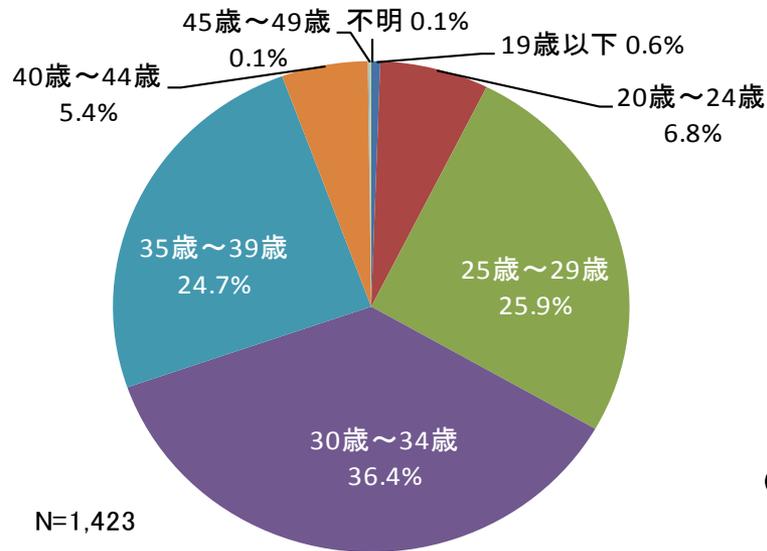
平成25年9月9日～平成25年10月13日

(3) 調査対象

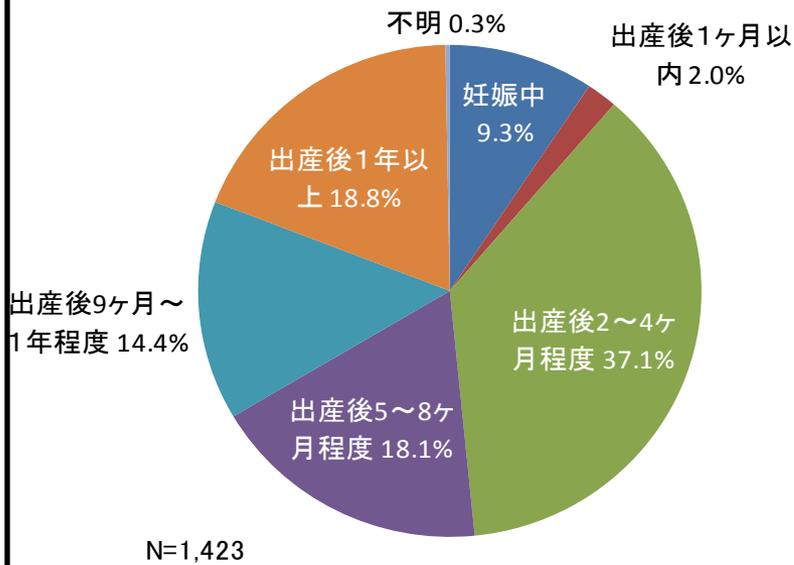
保健所区分	市町村名	サンプル	無効
中北	甲府市、甲斐市、中央市、昭和町	370	1
中北（峡北支所）	韮崎市、北杜市、南アルプス市	177	1
峡東	山梨市、笛吹市、甲州市	304	1
峡南	市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町	145	1
富士・東部	富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村	382	0
不明		49	0
合計		1427	4
有効回答数			1423

回答者について(基礎データ)

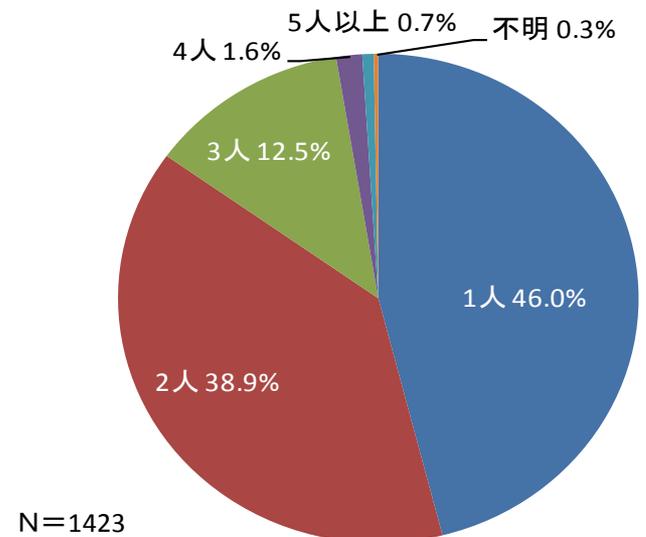
Q: 母親の年齢



Q: 母親の状態



Q: 子どもの数

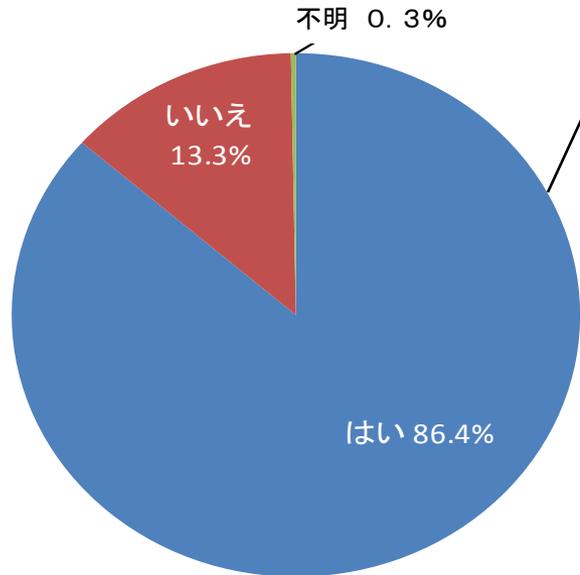


育児の協力者について

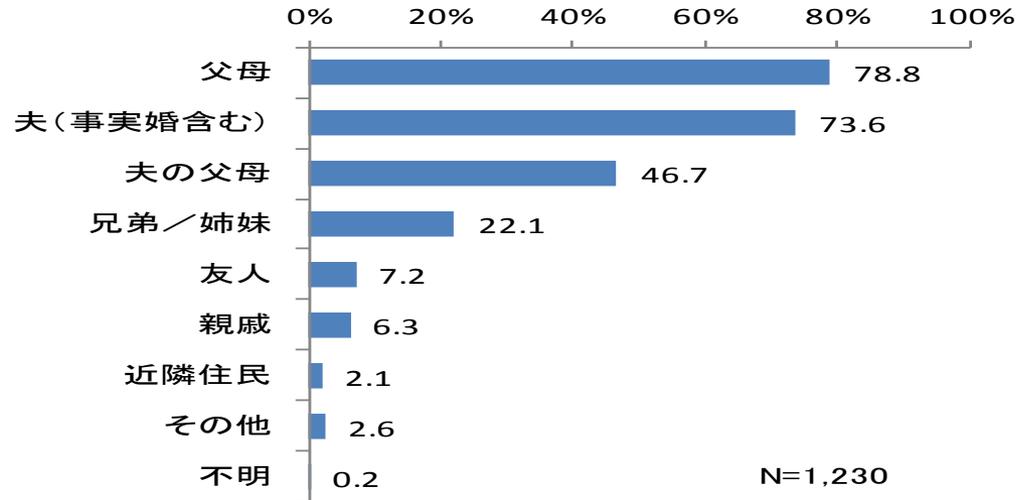
- ・育児の協力者は父母や夫が多く、年齢が上がるにつれ協力者がいない人の割合が上昇している

Q: 育児の協力者はいますか

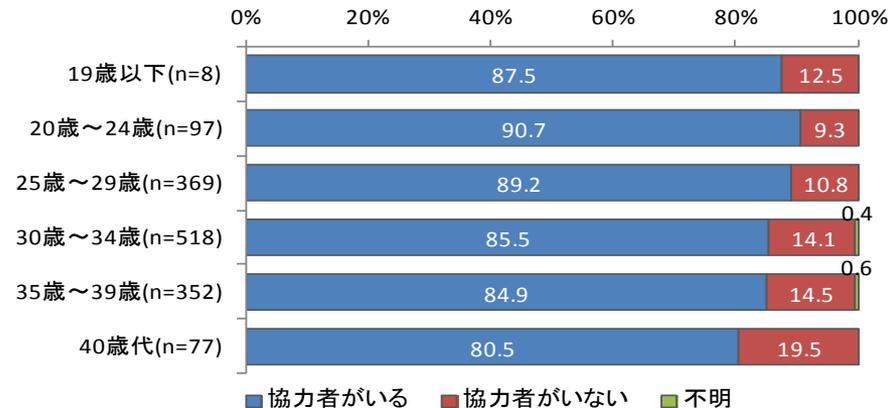
Q: 具体的な協力者



N=1423



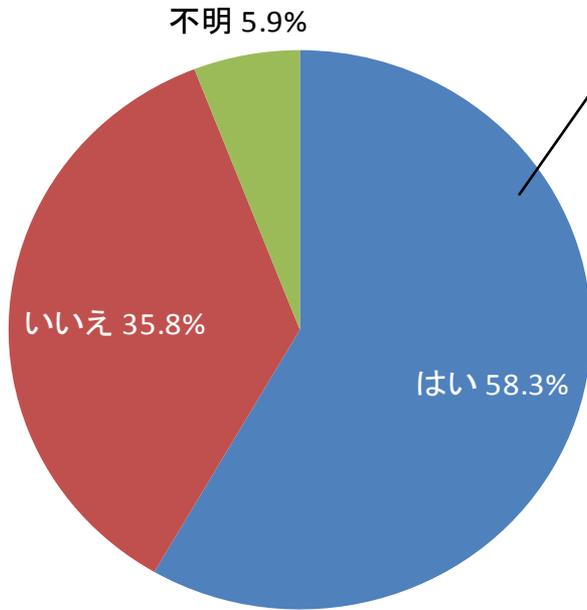
Q: 協力者の有無と年齢



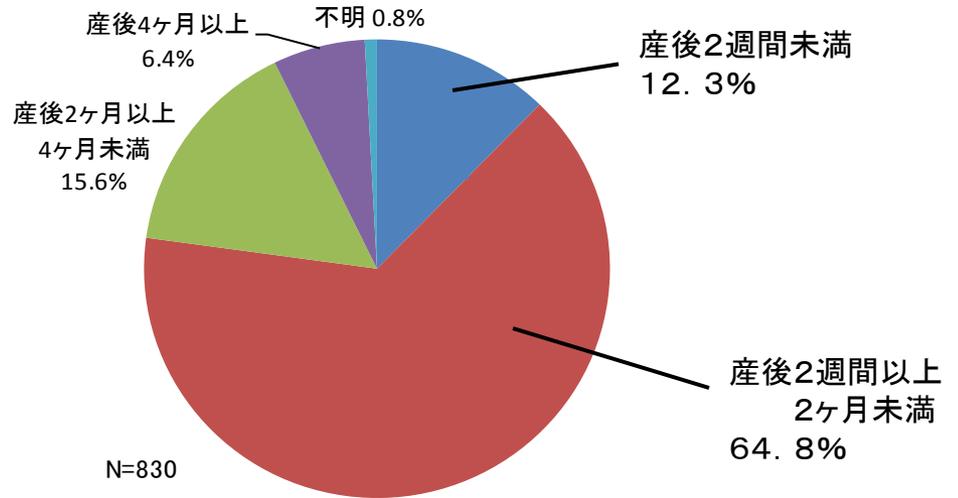
本県における里帰りの現状について

・里帰り期間は2ヶ月未満が約8割を占め、子どもの数が3人以上だと里帰りを行わない傾向がある

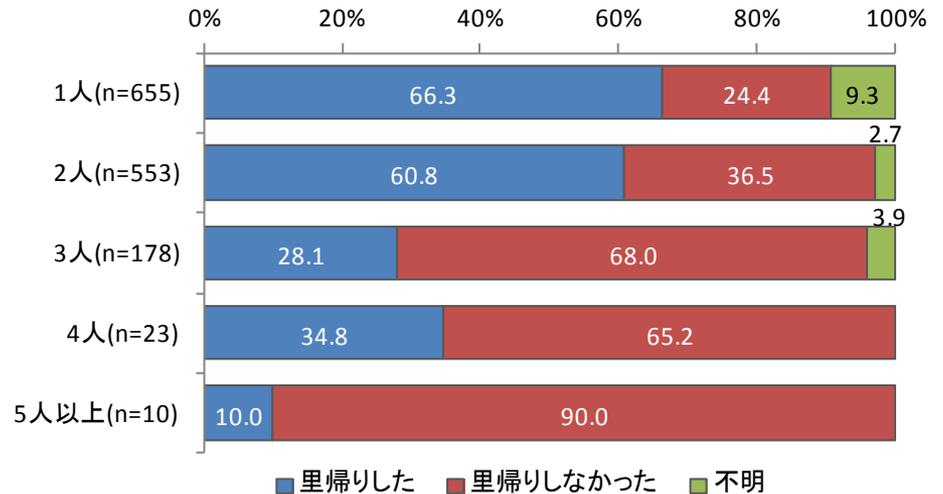
Q: 里帰りをしましたか



Q: 里帰りの期間

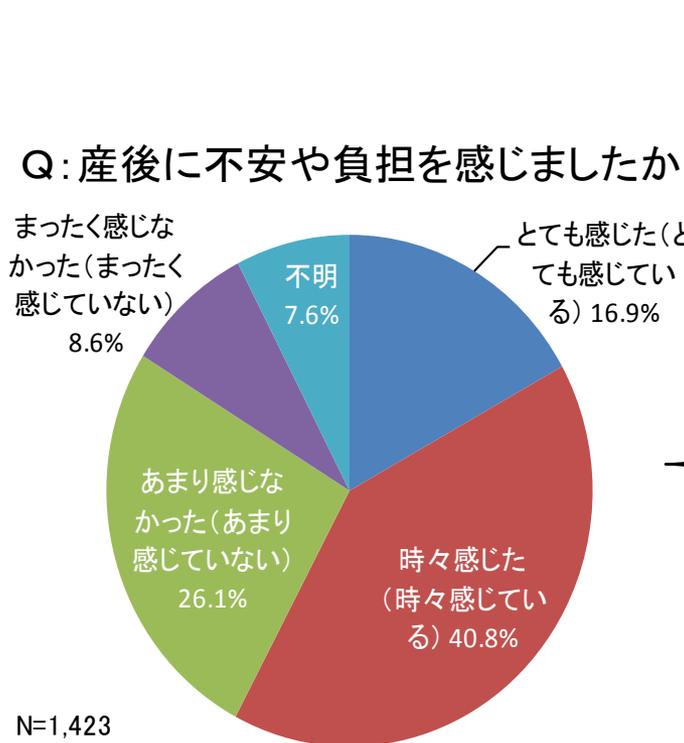


Q: 里帰りの有無と子の数

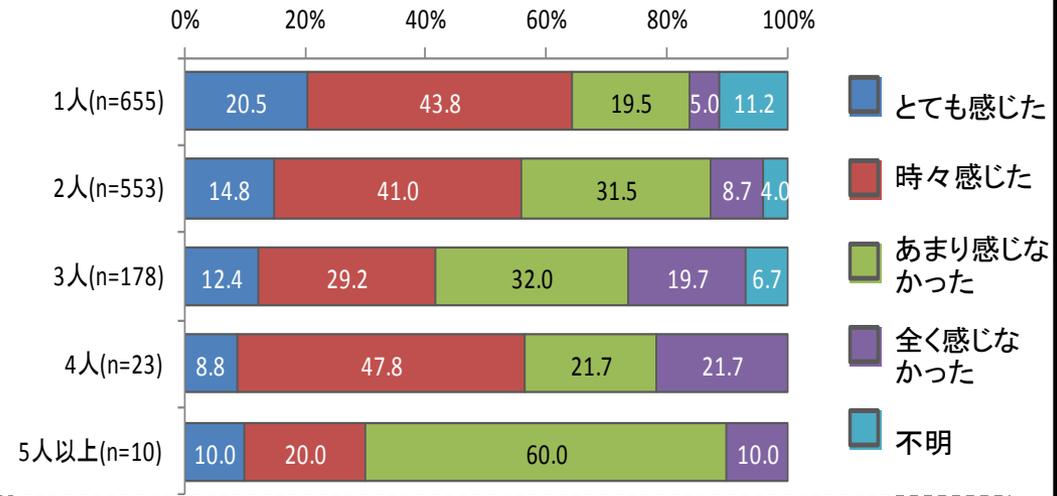


産後の不安感・負担感について

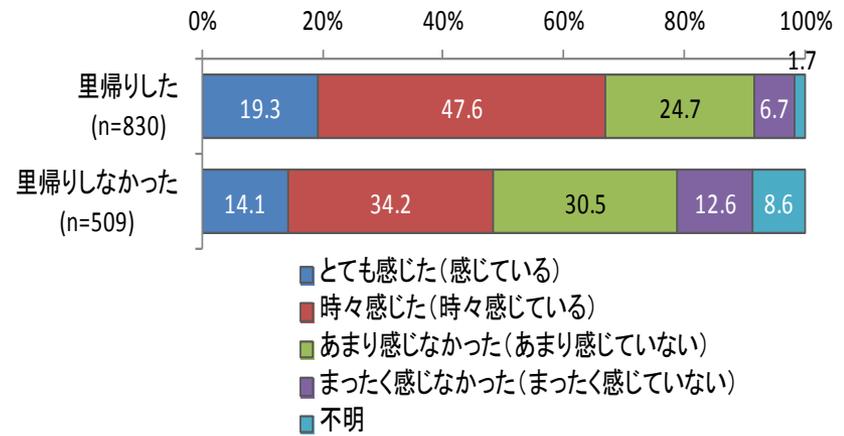
- ・約6割の母親は産後に不安や負担を感じており、子どもの数が少ないほど不安を感じる人は多い。
- ・里帰りをしてしても不安・負担の解消につながらない傾向がある。



Q: 子どもの数と不安



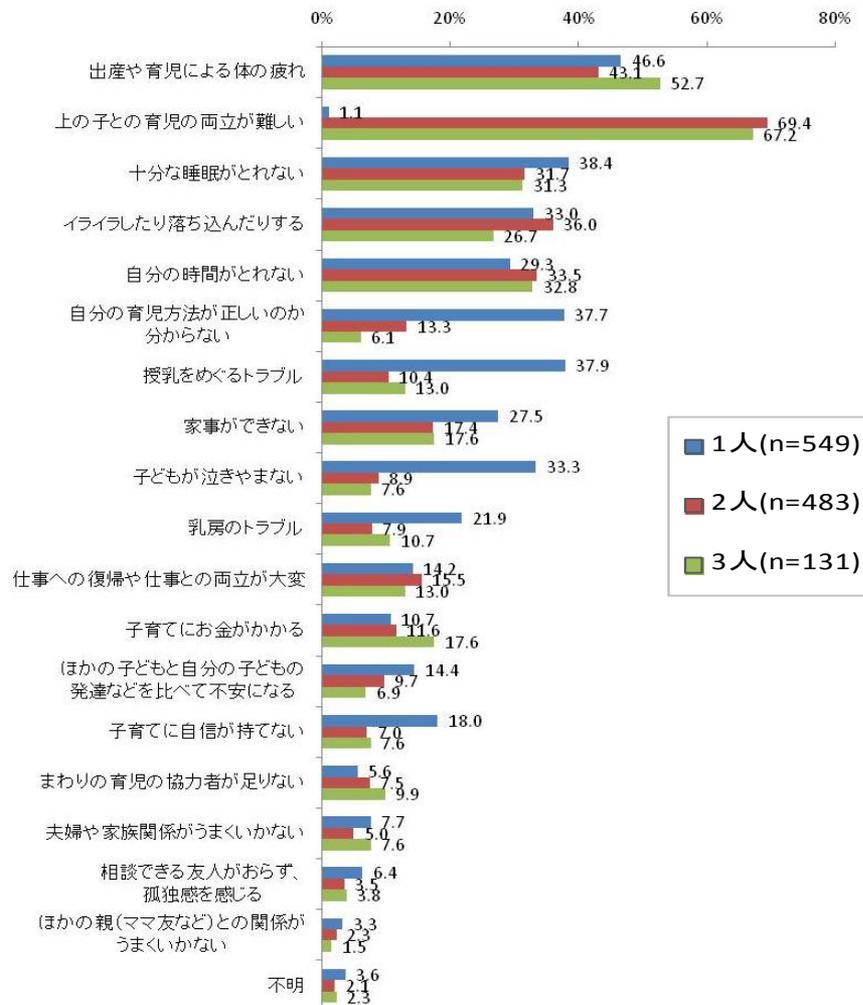
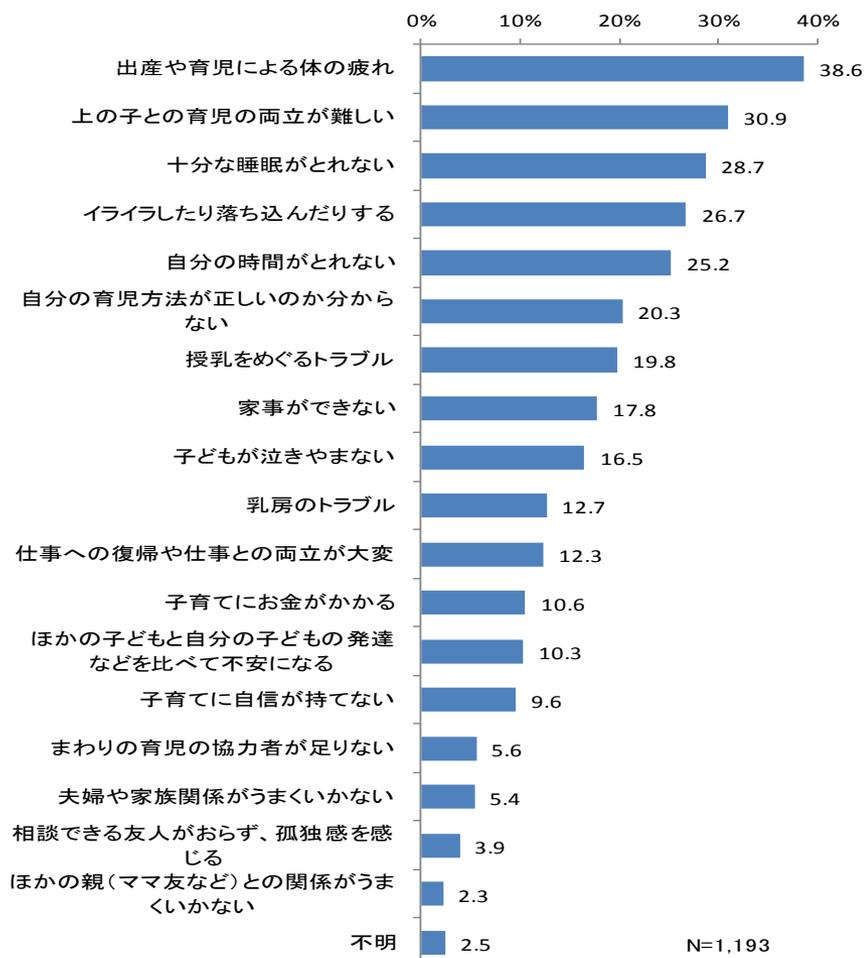
Q: 里帰りの有無と不安



どんなことに産後の不安や負担を感じたか

・体の疲れや睡眠不足、精神的な問題など心身への負担が上位を占め、他には上の子との育児の両立が挙げられている。

Q:どのような不安・負担を感じましたか



最も不安・負担を感じた時期

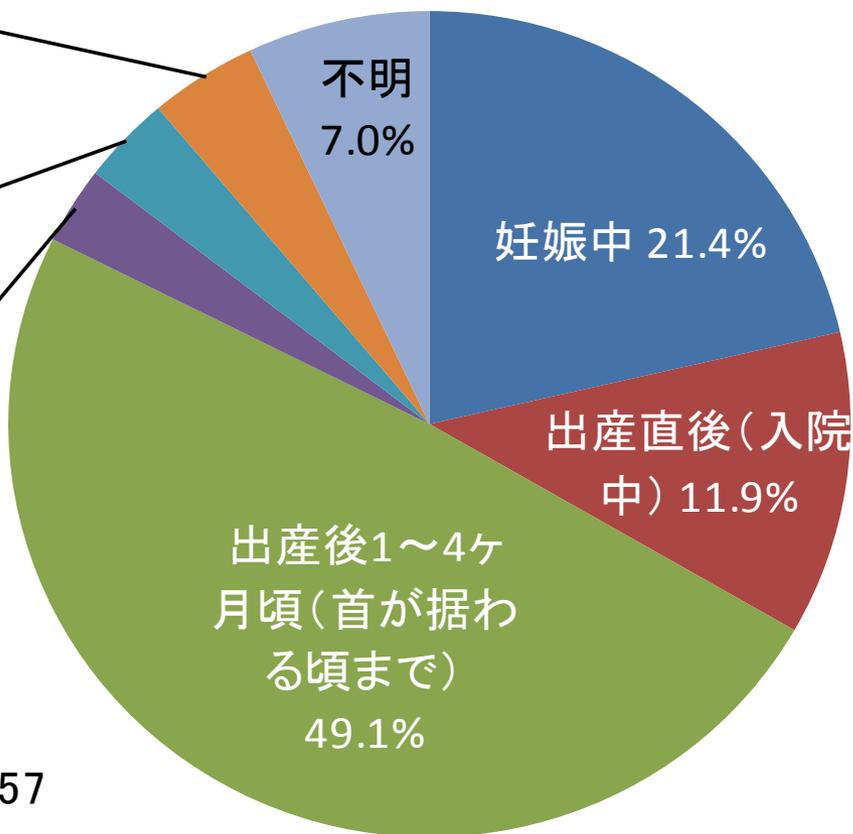
・最も不安・負担を感じた時期として、ほぼ半数が出産後1～4ヶ月頃までと回答し、次いで妊娠中が多かった。

Q: 最も不安や負担を感じた時期はいつですか

出産後1年以上
(一人歩きが
できる頃) 4.1%

出産後9～12ヶ
月頃(はいはい
ができる頃ま
で) 3.5%

出産後5～8ヶ
月頃(おすわり
ができる頃ま
で) 3.0%

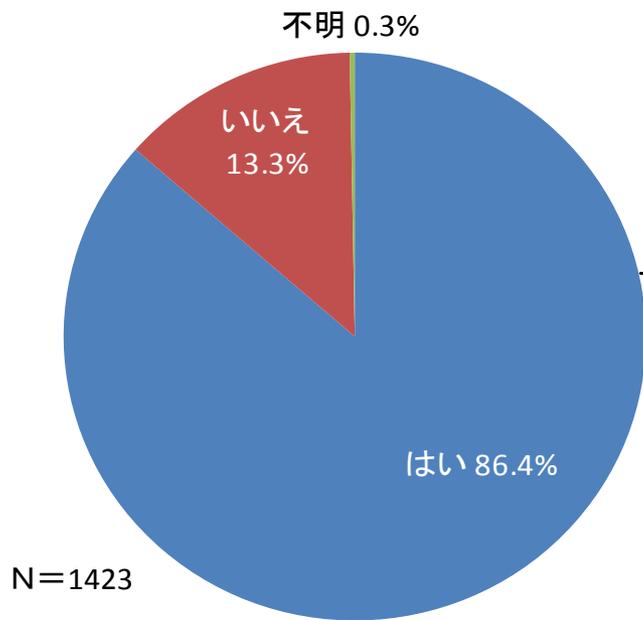


N=1,157

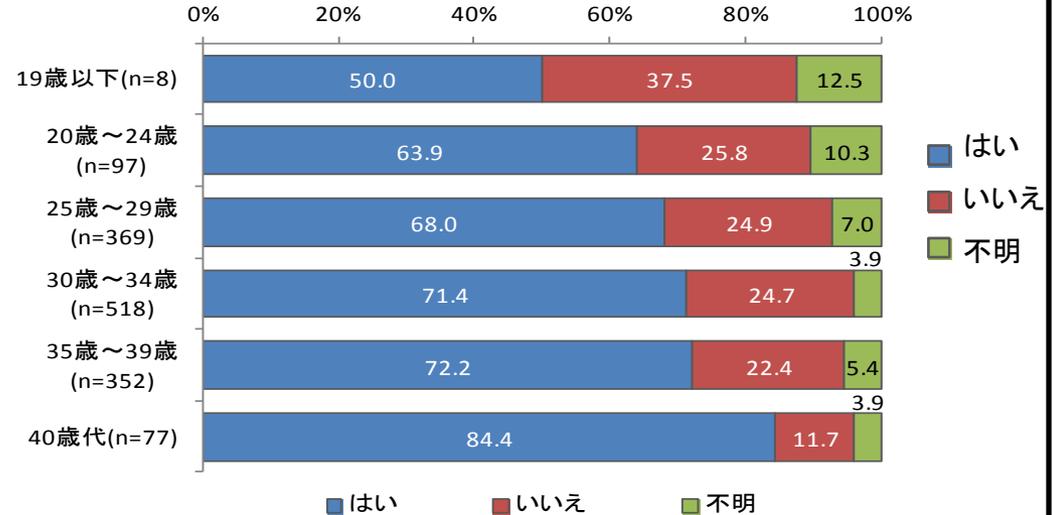
産後の支援の必要性について

・9割近くが産後の支援を受けたいと回答し、年齢が上がるにつれてその割合が上昇する傾向がある。

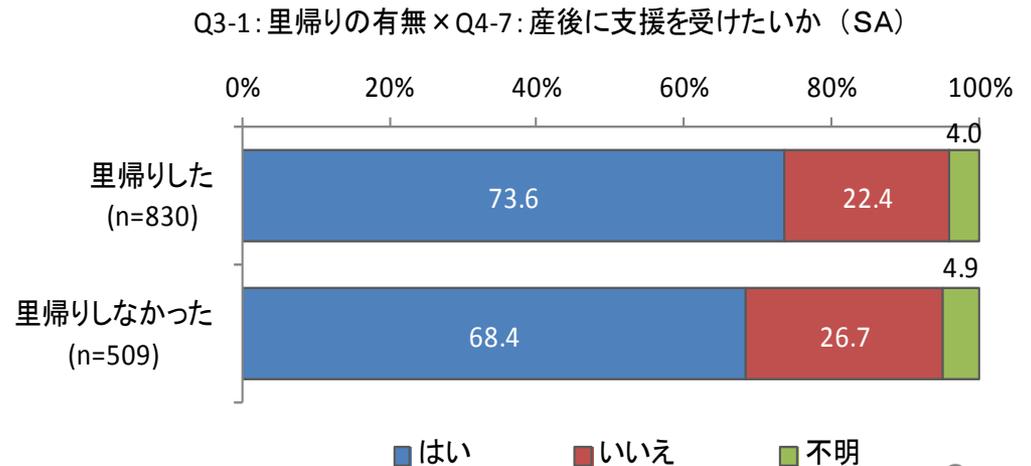
Q:産後の支援を受けたいですか



Q:年齢と支援の希望



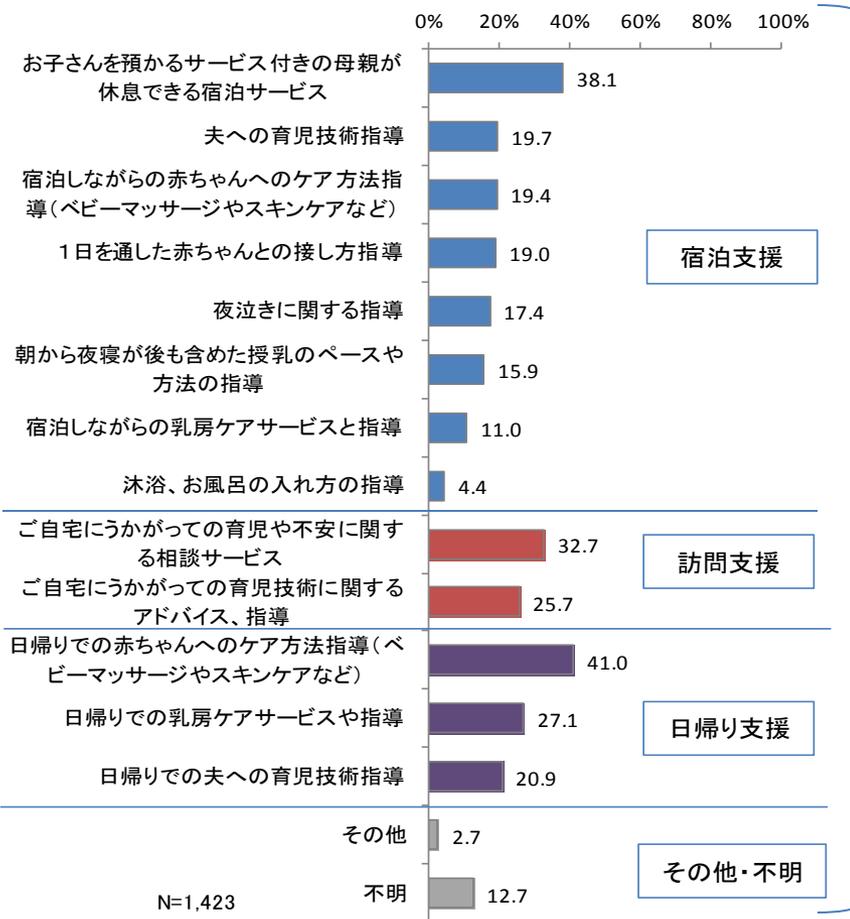
Q:里帰りと支援の希望



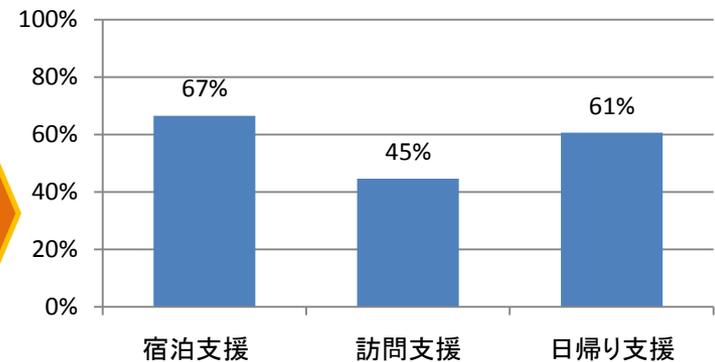
受きたい支援について

- ・支援の種類としては宿泊型の休息サービスや日帰りでの赤ちゃんケア指導、訪問しての相談サービスが多く、相談員としては助産師や保健師の希望が多かった

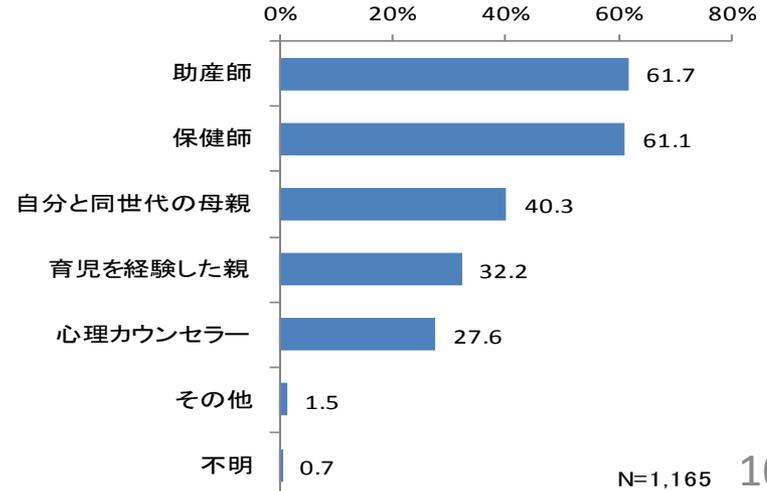
Q: どのような支援をうけたいですか



Q: 支援の種類別希望割合

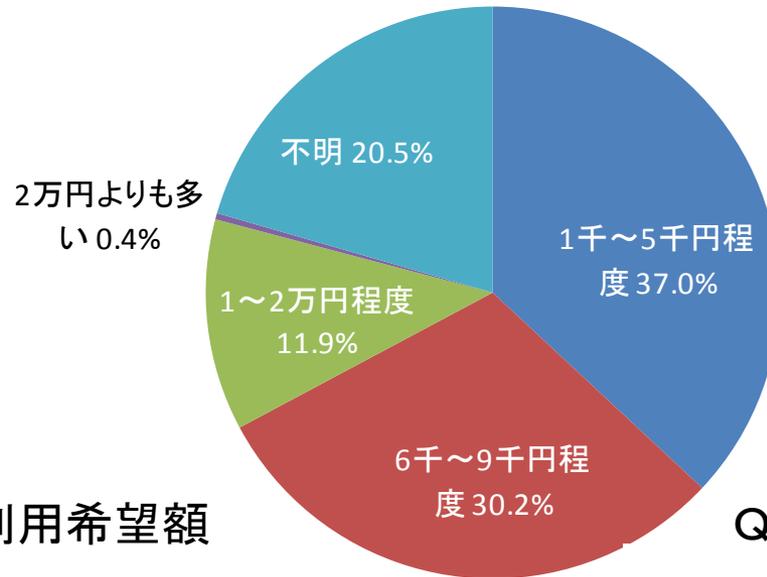


Q: どのような相談員に相談したいか

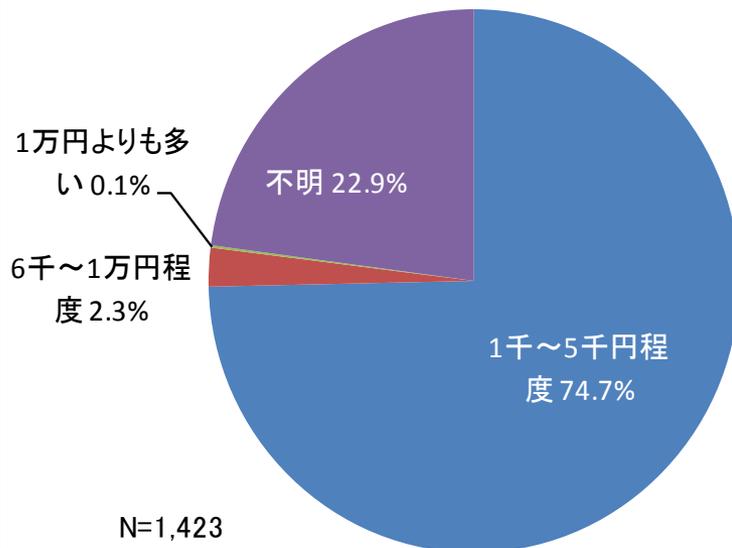


支援利用料の希望額について

Q: 宿泊型支援の利用希望額



Q: 訪問型支援の利用希望額



Q: 日帰り型支援の利用希望額

